

回覧

娘さんをもつ 保護者の方へ

子宮けいがんについて知っていますか!?

子宮けいがんは、子宮の入り口付近にできるがんで、日本では毎年約1万1千人が子宮けいがんにかかり、約3千人が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始め、子宮けいがんのために子宮を摘出しなければならなくなる女性が毎年約1200人いると考えられています。



子宮けいがんのほとんどは、HPVウイルスの感染が原因です。このウイルスは、女性の多くが一生のうち一度はかかると言われており、多くの場合は自然に消滅しますが、感染が続いたり繰り返されると、がんに変異することがあります。



子宮けいがんの予防方法は、「HPVワクチンの接種」と「子宮けいがん検診」です。ワクチンを接種することによりウイルスの感染を防ぎ、検診により早期発見をすることが大切です。

HPVワクチンに関するこれまでの経緯と課題

【H25年4月1日】

- ・ 予防接種法の一部を改正する法律が施行され、HPVワクチンの定期接種が開始される。
- ・ 以降、疼痛を中心とした多様な症状が報告される。

【H25年6月14日】

- ・ 厚生労働省より、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度が上がり明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」と、積極的な勧奨差し控えを通知。

国の方針の変化

【R3年10月1日】

- ・ (国の副反応検討部会で)HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とワクチンとの関連について根拠は認められていない。海外の大規模調査において、予防効果が示されている。

【R3年11月26日】

- ・ 厚生労働省より、ワクチンの安全性と有効性について、十分な情報提供が行われるようになっており、積極的な勧奨の再開を妨げる要素はないと通知。

R4年度からの積極的勧奨の再開を決定。

令和4年度にHPVワクチンを 公費(無料)で接種できる対象者

- ・ 定期接種 : H18年度～H22年度生まれまでの女子
- ・ キャッチアップ接種 : H9年度～H17年度生まれの女子(勧奨差し控えの時期の対象者)

一生のうちに子宮けいがんになる人は、1万人あたり132人。

HPVワクチン接種後に生じた重篤症状の報告頻度、1万人あたり5人。



HPVワクチンの講演会を開催します!!

- ・ 日時 令和4年7月12日(火) 13:30～14:30
- ・ 場所 フロイデ 電動中ホール
- ・ 講師 医師 島田 京子 先生(倉敷成人病センター)
- ・ 内容 子宮けいがんワクチンについて
- ・ 対象 中学生の保護者と女子生徒・その他希望者



お問い合わせ
里庄町健康福祉課 64-7211